

**研究成果展開事業
大学発新産業創出プログラム(START) 大学・エコシステム推進型
スタートアップ・エコシステム形成支援**

2022年度採択プラットフォーム

令和3年度補正予算 実施報告書

**「Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-
ecosystem
～PARKS～」**

2024 年 12 月 10 日

I. プラットフォーム名、主幹機関、共同機関 等

プラットフォーム名	Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem (PARKS)
主幹機関	九州大学 【総括責任者】 総長／学術研究・産学官連携本部 本部長 石橋 達朗 【プログラム代表者】 副理事／学術研究・産学官連携本部 本部長補佐・教授 大西 晋嗣 九州工業大学 【総括責任者】 学長 三谷 康範 【プログラム代表者】 理事／副学長 中藤 良久
共同機関	株式会社 FFG ベンチャービジネスパートナーズ、長崎大学、北九州市立大学、佐賀大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学、九州産業大学、久留米大学、第一薬科大学、福岡大学、福岡工業大学、山口大学、立命館アジア太平洋大学、沖縄科学技術大学院大学学園
評価対象の活動期間	2022年7月1日～2023年3月31日

II. 活動の概要

PARKS は、各大学の強みを生かし、九州・沖縄圏という地域にあるべき、かつ顧客志向で業界改変を実現可能、さらに台湾や東南アジアなど発展の著しいアジアと物理的距離の近い利点を生かし、アジアを足掛かりに世界展開していくスタートアップ創出を目指している。また、拠点都市である福岡市、北九州市、および九州・大学発ベンチャー振興会議との密な連携のもと、アントレプレナーシップ教育から起業支援までを一気通貫で実施し、PARKS インターユニバーシティ設立を目指し活動する。さらに、経営人材候補を学生やポスドクのみならず九州・沖縄への UIJ ターンを促進しながら確保する仕組みを構築する。それを踏まえ、補正予算では GAP ファンド(Step1 相当)15 件、GAP NEXT(Step2-1 相当)10 件、EIR プログラム(Step1 から Step2 まで一気通貫)2 件の計 27 件の採択・推進を行った。バイオ・創薬分野と一般分野の 2 つの領域に対して各フェーズにマッチするインキュベーションプログラムの提供、GAP NEXT プログラムについてはプレ CxO のマッチングサービスによる経営者候補の配置等を実施した。さらに、起業支援人材育成を目的としたプログラムも実施した。その結果、採択チーム 27 件の中から 2 社の起業と起業支援人材の 20 名以上の育成を実現している。

III. 活動内容と成果

1. スタートアップ・エコシステム拠点都市として目指すビジョンに対する貢献

PARKSは、福岡市、北九州市という2つのスタートアップ・エコシステム拠点都市を核に活動を行っている。

- ① 福岡市拠点: アジアのリーダー都市として成長都市のロールモデルとなるために、これまでの取組みに加え、コンソーシアムを通じた連携や、新たな支援施策によりユニコーンを生み出せるエコシステム構築を目指しており、KPIとしてユニコーン5社、10億円企業100社を掲げている。
- ② 北九州市拠点: 環境・ロボット・DX等の分野を中心にSDGs先進都市となるべく、強みの「環境・ロボット」分野を核に、テック系スタートアップ・エコシステム拠点都市を形成していく。スタートアップの力で北九州市から世界のSDGsの実現に貢献することを目指しており、KPIとしてユニコーン1社、市内スタートアップ100社、スタートアップビザ活用20件を掲げている。

PARKSは上記スタートアップ・エコシステム拠点都市のビジョンに貢献することを目指し、オール九州・沖縄圏が一体となり、アジアとつながるスタートアップ・エコシステムの創出を目指す。各大学の強みを持つ、「ロボティ

クス」「環境・食・海洋」「AI/IoT」「材料・素材」「医療・ヘルスケア」分野を軸とした、顧客志向で業界改変を実現可能なスタートアップを九州・沖縄圏という地域に持続的に創出していく。また、拠点都市である福岡市、北九州市、および九州・大学発ベンチャー振興会議との密な連携のもと、アントレプレナーシップ教育から起業支援までを一気通貫で実施し、2026年度末までに、PARKSインターユニバーシティ設立を目指し活動する。さらに、経営人材候補を学生やポスドクのみならず九州・沖縄へのUIJターンを促進しながら確保する仕組みを構築する。

2. 起業活動支援プログラムの運営

我々の目指す大学等発スタートアップは、各大学の強みを生かし、九州・沖縄圏という地域にあるべき、かつ顧客志向で業界改変を実現可能なベンチャーである。さらに、台湾や東南アジアなど発展の著しいアジアと物理的距離の近い利点を生かし、アジアを足掛かりに世界展開していくスタートアップである。

2026年度までには、ディープテック分野で、骨太かつグローバル展開可能でユニコーンを目指せるスタートアップ、さらに学生起業を含むサービス系のスタートアップ創出により、計155社の起業をプラットフォームから行うことを目指す。2022年度はプラットフォーム内から計8社の起業があった。

【PARKS起業支援プログラムの実施内容】

①発掘プロジェクト：先行技術調査等による起業可能なシーズの発掘

各大学独自の取組みで、起業支援プログラムへの提案に繋がる案件の発掘を実施。その結果100件以上のシーズが発掘された。

②GAPファンドプログラム（試作品（MVP）の開発、特許調査、市場調査、事業化計画の策定等）

バイオ・ライセンス分野、それ以外に分けてインキュベーションプログラムを実施した。

③ GAPNEXTプログラム（経営者候補の獲得と育成）・EIRプログラム（発掘から起業まで一気通貫支援）

プレCxOマッチングサービスにより経営者候補をチームに配置、起業に関する知識取得のためのオンライン講座、実務対応に沿った応用座学と事業内容に関して専門人材との壁打ちメンタリングを提供した。

また、GAPファンドの審査については、PARKSで設計した6項目と6段階の評価基準をもとに、審査の観点が異なる、①バイオ・ライフサイエンス分野と②それ以外に分け審査を実施した。共同機関である株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズを中心に、VC等関係者により審査委員会を構成。PARKS参画大学の関係者が含まれない独立したメンバーで審査を実施した。

④DemoDayの実施

採択された計27チームが、半年間の活動成果として顧客検証の結果と事業構想をビジネスプランピッチとして発表。各チームによるピッチに加え、研究者と直接交流することができるポスターセッションも実施。

【プレCxOマッチングサービスの提供】

兼業・副業人材に着目し、バックグラウンド、年齢層、居住地も多様なCxO候補のデータベース化と起業シーズとのマッチングによる起業の実現を可能とする。

【起業支援人材育成PG】

起業支援を行うURA等の育成を目的として、知識の提供を目的とした講座とPBL型のプログラムを提供した。実際に大学が保有する技術シーズを題材に、チームで新規事業開発、ビジネスモデル作成等を実施する、OJT形式で実施し、20名以上の起業支援人材の育成に貢献した。

【2件の起業達成】

①株式会社SEGNOS（研究開発課題名：がん患者血液から血中腫瘍細胞（CTC）分離による早期がん診断

技術の開発、研究代表者：田中賢教授)

②株式会社SCMバイオメディカ(研究開発課題名：高活性型ヒトインターロイキン18変異体を用いた免疫エフェクター細胞培養技術の事業化、研究代表者：田中義正教授) VCから2,000,000円調達済。

その他起業した2件を除く25件のうち5件が2024年度のPARKSGAPファンドStep2-1に採択されるなど、起業に向けて継続的な支援を実施している。

3. 起業環境の整備

【PARKSのHPの開設】

起業サポートに関するリソースの分散を防ぎ、効果的な連携を進め、主幹機関の九州大学および九州工業大学をモデルケースにディープテックシーズの情報発信地となることを目指している。特に、拠点の「場」を活かしたブランディングを意識し、得意とする専門分野にターゲットを絞り、設備や装置に関する情報や人材リソースの共有を進めている。

【PARKSコミュニティの開設】

キャンパス内コワーキングスペースや各地域の起業準備拠点としてのコワーキングスペースを活用することで、プラットフォームを経由して、経営ノウハウを持つマネージャー、コミュニティ、イベント企画、ファシリテーター、セミナー講師などの情報を共有可能とし、各コワーキングスペースの特徴を活かしつつも、協働的な発展可能な仕組み構築を目指している。また、地域企業へ情報発信し、産学が共創する「場」をつくることを目指している。これらを目的として、北九州市立大学を中心に大学発の起業活動を支援する共創コミュニティ「PARKSコミュニティ」を、コミュニティプラットフォーム「Tailor Works」上に開設した。

【PARKSアーカイブシステムの改善と展開】

PARKSプラットフォーム内外でコンテンツの共有化を可能とするためのアーカイブシステムの開発と運用モデルの構築を進めた。2022年度は試作システムの開発といくつかの機関での試行を開始している。

特に、アーカイブシステムについては、PARKSインターユニバーシティ構想の中での収益源の一つとして、モデル検討を開始している。今後は、利用機関数も増やすとともに利用料を得る仕組み等も構築していく。具体的には、各大学が個別開発するコンテンツをPARKS インターユニバーシティへ提供し共有化して、起業意識の高い社会人受講生に対して受講料や認定料などの安定的な収益を確保していく方法である。さらには、PARKSアーカイブシステムを整備することにより得られる、プログラムやツール、システム開発ノウハウなどを活用して、参加大学以外の他大学での同様の取り組みを行う際に支援を行うことで、全国展開する際のコンサルティング料、ライセンス料などの収入なども収益に繋げていくことを引き続き検討する。